

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591100078		
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームあいかわ		
所在地	秋田県北秋田市新田目字大野5番地1		
自己評価作成日	平成30年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、小規模多機能型居宅介護事業所と併設しており、行事やレクリエーション等、年間を通して利用者同士の交流が図れています。その為、小規模多機能型居宅介護事業所を利用されている方のグループホーム入居希望者も多く、馴染の環境でスムーズに入居できています。家族やボランティア、地域の方々と交流会を行ったり、地域の祭りや行事に出向き、入居者の方々に楽しんで頂けるよう取り組んでいます。入居者がこれまでやってきた事を、なるべく継続して頂くよう簡単な家事や散歩、畑作り等も行っています。向かいには消防署があり、避難訓練や救命講習会等で日頃からご指導、ご協力を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な場所にあるが、歩いていける範囲に日常生活圏があり、地域住民との交流が図られている。事業所内は共有空間、居室とも明るく清潔に保たれている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所を利用してからの入所や居室作りの配慮によって、環境の変化によるストレスの軽減を図っている。また、看護師2名が常勤しており、健康、体調の管理をしている。職員同士のコミュニケーションも良好であり、それがケアに反映され、利用者は穏やかに生活されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目が届くよう玄関正面に掲示している。年に一度、理念を再検討し自分達の行っている介護を振り返る機会を作った。理念以外にも毎月目標を決め日々取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し共有・実践につなげている。年度初めには職員全員で、見直し検討を行い、振り返りを行っている。また、理念を基本に、毎月具現化した目標を立て、ケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、事業所の行事に地域の方々を招待している。月2回調理ボランティアとして地域の方々の協力を頂いている。	散歩の途中で一休みできる場所や声を掛けてくれる人、民生委員のボランティア、また、お祭り際には御神輿がホームの前まで来てくれるなど、地域との結び付きが強い中で暮らしている。春、秋の駅祭りでは出店を出すなど積極的に地域の活動を担い、相互関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	集落サロンに出向き認知症予防体操を行ったり、寸劇で分かりやすく認知症の説明を行っている。職員は年1回全戸訪問を行い事業所のPRIに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し利用者の状況や行事の様子、ヒヤリハット報告等を伝え意見を頂いている。外部評価についても報告し意見を頂いている。	参加者は市職員や民生委員、自治会、家族など10名ほどで、様々な視点から意見を徴収する場となっている。会議の場でヒヤリハット報告をし、様々な人の意見やアドバイスを聞くことで少なくなるのではという意見があり、報告を行っている。町内で認知症の方が行方不明になった事案から交番のお巡りさんから講話をしてもらうなど、理解や支援の場に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、助言、指導を頂いている。	運営推進会議を通して事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告している。電話や直接役所に向いてアドバイスをもらうなど、随時相談できる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のマニュアルに沿い勉強会を行い、職員同士声を掛け合っている。また、今年度より3か月に1回身体拘束等対策検討委員会を開催し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事例はなく、日中玄関の施錠はせず、チャイムの使用もしていない。マニュアルの見直しや、事例検討などを通して学びの機会を持ち、実践につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のマニュアルの他、高齢者虐待防止セミナー等の外部研修に参加している。職員で学ぶ機会を持ち実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、事業所内で勉強会を行っている。他の職員にも落とし込みしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、納得のうえ同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決第三者委員による相談日を実施し意見を聞く機会を設けた。ご意見箱を設置し、頂いた意見を掲示するようにしている。	年2回苦情解決第三者委員による相談日を設けている。家族からの相談はないが、利用者一人ひとりから話しを聞き、ケアに反映させている。家族へ情報を提供する中で聴き取る努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年個人面談を行い、出た意見をまとめ改善に努めている。毎月の運営会議でも意見や提案の機会がある。	個人面談により職員の悩みや思っていることなど聞く機会があり、職員の増員など運営に反映されている。ミーティングなど日頃から、職員の意見や提案ができる場がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や毎月行っているミーティングで出た意見、要望を把握し改善に努めている。法人内では年1回職員登用試験を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て毎月内部研修を行っている。外部研修に多くの職員が参加できるよう計画し、復命書にて回覧している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所と連絡調整会議を行い、意見交換している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人の状態、意向を確認し不安等を受け止めていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族とも面接を行い、本人の状態、家族の要望を聴き、不安等を受け止めていけるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のニーズ沿えるようコミュニケーションを図り、自宅で行ってた事を継続して行えるよう、簡単な作業や食事の片付け等を手伝って頂きながら過ごしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を伝え、気軽に何でも話して頂けるよう努めている。日頃の様子を毎月お便りで送付し、年に2回家族交流会を開催し参加して頂いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋、美容院、病院等、本人の行きつけの場所への支援を行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。	小規模多機能型居宅介護事業所と併設しており、顔馴染みの通いの利用者と話しをする機会がある。気持ちを表出するのが難しい利用者にも工夫して声を掛け、思いを引き出しながら関係継続に努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互い関心を持ち、声を掛け合えるよう見守り、介入している。孤立したりトラブルにならないよう座席にも配慮している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に相談できる関係を心掛けている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望に出来る限り応えられるよう、普段から表情を観察したり、ゆっくり話しをするよう努めている。	家族からの生活状況や生活史の聞きとり、また会話の中で本人の思いを汲み取る努力をしている。申し送り・気付きのノートにて職員が共有を図っている。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に生活歴を記入して頂いている。情報収集に努め、なるべく自宅と同じように過ごしていただけるよう心掛けている。	
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、その人に合った無理のない過ごし方が出来るような支援に努めている。	
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成する際は本人、家族の意向を確認している。利用者に担当を設け、毎月の会議で状況確認したり、モニタリングしながら作成している。	担当制としており、本人・家族の意向を踏まえ3か月に1回モニタリングをし、ミーティングで職員全員で話し合い共有している。癌末期の利用者の家族からの聴き取りの際、りんごの花見、収穫の希望があり、プランに取り入れ実践し喜ばれたケースがあった。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に記入し、朝夕の申し送りで情報の共有に努めている。また、気付いたことはすぐに職員間の気付きノートにも記入し情報共有も務めている。	
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回調理ボランティアの協力を頂いている。自治会、地域の保育園、小学校、教会、民生委員等との交流も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から通院している医療機関を受診している。受診時は看護師が同行し、本人に代わり現状を細かく伝え適切な医療が受けられるよう努めている。	看護師2名が受診対応している。本人・家族の希望する医療機関、薬局を継続できるよう支援している。体調不良時は、診療所の往診も可能である。特変時は速やかに家族に報告している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間連絡が取れる体制の為、利用者の体調について気付いた事は、看護師に相談し指示を仰いでいる。必要に応じては受診をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況を病棟看護師に確認したり、退院時は必要に応じカンファレンスに参加している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合に係る指針を説明し同意を得ている。	指針、マニュアルは整備されているが、看取りの事例はない。本人・家族の意向とともに、職員・医師との体制の確保、連携が重要であるというホームのビジョンが明確になっている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を受講し、館内にAEDを設置している。看護師とは24時間連絡を取れる体制となっている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(日中、夜間)を行っている。近隣住民の方にも避難訓練に参加して頂き、意見交換を行っている。スプリンクラーを設置し、発電機を準備している。	市の防災マップから想定される地震、火災の避難訓練を実施している。近隣の方5名にも協力委員として参加してもらうなど、地域と消防の協力を得ている。災害に備え、備品、手作りの担架などを備え、避難路として使用できるよう一部居室の窓を改築し、3ヶ所から避難することができる。	一部避難経路に段差があった。より実践的な訓練から、そのノウハウや教訓を蓄積し、防災力の向上に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねないよう支援しているが、自分の都合に合わせて強い口調になる事もあり、職員ミーティング等で確認し合っている。	入浴は1対1の対応としており、排泄も言葉掛けに工夫をしている。思いやりのある優しく慣れ親しんだ言葉掛けを心掛け、ミーティングなどで振り返りを行っている。	周囲の人の目に触れる場所に、排泄チェック表が置かれていた。また居室が分かるよう名前を貼られている。利用者にとって有効な手段となっていたが、プライバシーの観点から工夫、改善を行うことに期待したい。
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話に耳を傾け、相槌やうなづき等、話しやすい状況をつくり、自己決定できるよう努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、好きな場所で自由に過ごせるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には自分で服を選んでもらったり、化粧をしたり、定期的に行きつけの美容院を利用できるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から収穫した野菜をメニューに入れたり、食べ物で季節を感じて頂けるよう献立を工夫している。	敷地内に畑があり、野菜の成長を楽しみながら旬の野菜を調理に活かしている。栄養のバランス、色彩、調理方法など工夫しながらメニューを立てている。山菜などの皮むき、下膳、テーブル拭きなど、一人ひとりの能力を活かしている。また食べこぼし、介助の必要な利用者など食事席に配慮し、テレビはつけず、BGMで食事に集中できる環境作りをしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量や形状で提供し、食事量、水分量を毎日記録している。月末に体重測定を行い増減に注意している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた声掛け、誘導をしている。	チェック表を利用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握、また3ヶ所のトイレには同じマークを使用し場所がわかるように工夫しながら、排泄動作の維持につなげている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎朝、牛乳を提供し日中も水分補給に努めている。主治医からの服薬で調整している方もいる。また、一部の方には、散歩や体操も取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の健康状態や意思に合わせて、週3回程入浴している。	一人ひとりの希望を大切に、入浴が楽しめるようバスクリンを使用したり湯温の調整を行っている。入浴を拒む人に対して、言葉掛けなどを工夫している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じ休息、睡眠できるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容、副作用が分かるようにファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂くよう軽作業等、無理なくできる事を提供している。嗜好品は本人の希望に沿って提供している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩をしたり、テラスに出て日光浴している。外出や外食の機会を設けたり、自分の衣類を買いに出かけたりの支援をしている。	半数の利用者はお盆に外泊され、墓参りなどこれまでの習慣が継続されている。日々の関わりの中から、利用者の思いを汲み取り外出支援につなげている。買い物、外食を通して自己選択することで、楽しみ、より主体的な生活の実現につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の依頼により施設側で管理、毎月収支報告している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話は、気軽に出来るよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除や消毒を行い気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。季節に合わせた手作りのカレンダーを貼ったり、季節の折り花を壁に飾っている。	ホールにはフローリングのダイニングテーブルで食事などをするスペースと、絨毯敷きのソファで寛げるスペースがある。ソファではスリッパを脱ぎ、会話を楽しまれている。ホーム内には小上がりの畳スペースもあり、ソファを設置し、利用者はその日の気分で寛いでいる。職員が掃除をしているが、利用者もモップ掛けなどを手伝っており、清潔で明るい。手作りの大きなカレンダーには、今日の日付がわかるような工夫がされていた。また壁の装飾も季節感があり、ボランティアの水墨画がホールや廊下に飾られ、落ち着いた雰囲気となっていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースがあり自分の好きな場所で自由に過ごして頂いている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具やテレビ等、慣れた物を持ってきて頂いている。家族や思い出の写真を居室に貼っている方もいる。	自宅で使い慣れた物を持ち寄り、より自宅に近いレイアウトで環境のギャップを感じないよう、その人らしい居室作りをしている。差し込む日差しなど居心地良く過ごせるよう配慮している。自分の部屋がわかるよう工夫している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境をあまり変えないよう心掛け、必要な方は居室の入り口に名前を貼り混乱を防いでいる。トイレの戸の色や窓を統一し分かりやすくしている。		